

高砂市総合計画審議会（第1回部会）
議事録【要 旨】〔第1部会〕

| | |
|------|--|
| 開催日時 | 平成21年8月19日（水） 午後2時00分～午後4時20分 |
| 開催場所 | 南庁舎5階大会議室 |
| 部会長 | 前田委員 |
| 出席者 | 稲田委員、柿木委員、中野委員、前田委員、 坂口委員、渡邊委員、大鳥委員（代理 米澤） |
| 欠席者 | 足立委員、山本委員、田端委員（3名） |
| 議 事 | （1）「部会運営スケジュール」「課題のまとめ方法」について （2）配布資料について （3）課題審議について |
| 資 料 | ①第3次高砂市総合計画 現況調書 ②第3次総合計画「施策データ」一覧表 ③第3次基本計画部会別一覧表 ④総合計画策定スケジュール・・・・・・・・・・・・・・・・（資料1） ⑤その他 ・部会審議における主要課題のまとめ＜記載例＞・・・・・・・・（資料2） ・施策データの追加資料 （追加）6．高砂市ホームページアクセス件数・・・・・・・・（資料3） （追加）7．市民相談件数等の推移・・・・・・・・・・・・・・・・（資料4） （追加）8．地域特性の整理分析（産業）・・・・・・・・・・・・（資料5） （追加）9．行政サービス水準等の分析（行政基盤）・・・・（資料6） |

| 議 事 の 経 過 | |
|-----------|--|
| 発 言 者 | 発 言 の 要 旨 |
| | 1. 開会 |
| 事務局 | ただいまより高砂市総合計画審議会、第1部会総務部会を開催する。本日の会議は、出席者7名、欠席者3名。したがって、審議会条例第5条第3項の規定により、過半数が出席しているため、会議が成立していることを報告する。またこの部会は、高砂市総合計画審議会の運営に関する規定に基づき公開している。本日の傍聴希望者は1名。これより議事進行は部会長とする。 |
| 部会長 | 本日の議題を次第にしたがって進める。まず事務局より議題（1）について説明願う。 |
| 事務局 | （1）「部会運営スケジュール」「課題のまとめ方法」について説明。 |
| 部会長 | 議題（1）について、ご質問、ご意見はないか。 |
| 委員 | 「主要課題のまとめ」が第1章のものしかない。第2章から第5章までの用紙はないのか。 |
| 事務局 | これは記載例である。今後、部会で出された意見を項目ごとにまとめていく。 |
| 委員 | 部会の開催日について。次回の部会が10月2日（金）と6日（火）に分かれているのは部会の違いか。 |
| 事務局 | 10月2日は第2部会、第3部会、10月6日に第1部会を開催する予定である。第3回目は10月30日が第1部会、第2部会、11月6日は第3部会となっている。 |
| 部会長 | 議題（2）について説明願う。 |
| 事務局 | 議題（2）について説明。 |
| 部会長 | 配付資料について意見、質問はないか。ないようなので次に進む。議題（3）課題審議について事務局から説明願う。 |

| | |
|---------|---|
| 事務局（幹事） | 議題（3）第3次総合計画の現況調書について説明。 |
| 部会長 | ただいまの説明に対して質問、意見はあるか。 |
| 委員 | この第1部会は、将来の目標人口や土地利用、地域福祉、児童福祉について協議するのか。どのように、審議すればいいのか。 |
| 事務局 | 第1部会所管部分について審議をお願いします。それから広げていただいてもかまわない。 |
| 委員 | ハザードマップ、防災マップが作成されているが、実際に災害が起きたとき、即、市民の手足となって引っ張ってもらえるようなものになっているか。また、職員もどの道で市民を誘導できるか把握しているか。 |
| 事務局（幹事） | 市では災害対策として、防災計画と物資の整備を進めている。また、地域で自主防災組織を結成している。毎年1回、自治会、自主防災会、消防団等の協力のもと防災訓練をおこない、住民の避難誘導訓練を実施している。 自主防災組織の結成率は85.3%で、市から助成金を出している。少人数の自治会の結成が遅れているのが課題である。 |
| 委員 | ハザードマップがつけられたのちにすべきこと、対応について、市はどのように進めていくのか。 |
| 事務局（幹事） | 災害時、警報が出た場合、段階を踏んで基準が設けられている。そういった基準に基づいて、避難勧告等の対応を行っている。 |
| 委員 | 市民を安心安全に導くことが、一番大事である。 先、先に進めた対応をお願いしたい。 |
| 事務局（幹事） | 十分承知している。 |
| 部会長 | ハザードマップは、つくっただけではだめである。過去、高砂市で浸水被害にあった地域に対して住民意識の高揚を図るなど、啓発活動が大事になってくると思う。佐用町で降ったような大雨が高砂市で起きた場合にどうするか。さまざまな場面を想定して対策を練ってほしい。 |
| 委員 | 佐用町も、これまでの経験から水害の起きやすい地域はわかっていたが、財政難ゆえに対策ができていなかったと聞く。ハザードマップはあっても、最悪の状況下でどうすべきかということが市民に浸透していない。地域の特性を考慮して災害対策を練る必要があると考える。 |

| | |
|---------|--|
| 部会長 | 避難勧告を出すにしても、さまざまな場面、災害を想定しておくべきである。無理して避難所に行くよりも、家にいたほうが安全な地域の場合もある。 |
| 部会長 | やはり、災害に対する住民意識の高揚を図ることが重要である。総合計画策定に際しても、市民の命を守ることを最重点項目として取り組んでいくという決意をすべき。 |
| 委員 | 事業評価の効果を教えてほしい。 それと、施策評価導入について説明願う。 |
| 事務局（幹事） | 事務事業評価の効果ということで、説明させていただく。平成19年度は、181の事務事業について自己評価をした。予算を拡大して実施すべき41件、22%。現状維持が99件、55%。要見直しが181件のうち37件、20%。事業の縮小が3件、1.7%。廃止すべきが1件であった。 あくまでも、自己評価の範囲である。 施策評価については、現在、事務事業評価として一番小さい単位での評価を実施しているが、もう少し大きいくくりの施策単位での評価を検討するということである。 |
| 委員 | 庁内で評価しても、よい方向へ向かうのには時間がかかる。企業であれば、第三者機関で評価し、改善する方法を採るが、市は第三者機関での評価は考えないのか。 |
| 事務局（幹事） | たしかに自己評価は個人的なものである。今後、第三者、特に市民の方を含めた評価システムをつくる必要があるとは考えている。 |
| 委員 | 行政側は、第4次総合計画策定に併せて、新しい評価システムを取り入れようと考えているのか。 |
| 事務局（幹事） | 実際には内部評価になるのだが、平成20年度に、事業仕分けとして、市役所職員が市民目線で、できるだけ第三者的な目で見るというルールのもとに、事業を評価する取り組みを行った。外部評価を取り入れる必要は感じているが、現在はその予定はない。まずは職員に事業の選択と集中の考え方を浸透させることが重要だと考えている。 |
| 委員 | 施策を評価するときには、資源をどの施策に配分するのが効果的かを判断しなければならない。第3次の現況と課題を見ていると、事業が未実施である理由や課題の根本に財源不足があるように見受けられる。次期計画でそうならないように、財政フレームをどういう前提のもとに考えるか、しっかり見極めてから計画を立てるべきである。それを考えるのが、この総務部会に |

| | |
|---------|---|
| | 課せられた役割だろうと考える。 |
| 事務局 | 以前、総合計画は総花的なものが主流だった。しかし、第4次総合計画は、絵に描いた餅にしたいくない。厳しい財政条件を示し、ある程度の財政フレームを示し、実現性の高い総合計画にすべきだと考えている。 |
| 部会長 | 財政フレームの提出はいつごろを予定しているのか。 |
| 事務局 | 部会の開催中を考えている。 |
| 部会長 | 財政フレームは計画を立てる際の基本部分であり、重要な協議資料である。できるだけ早い時期に提出願う。 |
| 事務局 | 承知した。 |
| 部会長 | 委員あてに送付いただきたい。 |
| 事務局 | 事前送付を含めて考える。 |
| 部会長 | 昨年度、高砂市民病院の赤字が26億円から1億6千万円に縮小したということだが、どのような方法で赤字を縮小したか具体的に示してほしい。 |
| 事務局（幹事） | 19年度末で26億円不足していたが、1年後には1億6千万円になり、大幅に減った。その26億円のうち22億円は、公立病院特例債という起債を借りている。残りの4億円を1億6千万円程度まで圧縮したが、それは医業収益が上がったこと、医療機器の再リース、安い薬品を使うなど、経営努力によるものだと聞いている。 |
| 委員 | 公立病院特例債の22億円は高砂市の借金ではないか。 |
| 事務局（幹事） | そうだ。 |
| 委員 | 返す必要のある借金だという説明がまったくない。これでは22億円の負債がなくなると勘違いしてしまう。市民が負担すべき借金であるということをきちんと説明すべきである。 |
| 事務局（幹事） | たしかに短期借入が長期借入になったという説明が抜けていた。22億円は一般会計で負担し、7年間で返済する。起債の償還と、それ以外の部分の損失予定の特別繰出と合わせて約42億を一般会計から繰出する。 |

| | |
|---------|--|
| 委員 | <p>表面上だけきれい見せかけていると、みんな信用してしまう。きちんと説明しないと怖いことになる。</p> |
| 部会長 | <p>一般市民は、計画の細部まで理解することは難しい。この部会では、市民の立場に立って、少しでも不明な点は深く掘り下げて質問するのが役目である。どんどん質問いただきたい。</p> |
| 委員 | <p>市民病院の借金返済にあてられるのは市民の税金である。借金を払ってそれで終わりではいけない。市民病院がこれからきちんと運営できるかが問題である。民営化も視野に入れて、危機感を持って運営してもらいたい。市民のお荷物になることは避けてほしい。</p> |
| 部会長 | <p>市民病院の先生方や職員の方は、非常に努力されている。借金が一般会計に繰り入れられると責任は市民病院から離れてしまうようにもとれるが、内実は変わらない。</p> <p>次に、北浜の救急ステーション事業が財政難のため未実施事業として先送りされたことについて説明願う。北浜救急ステーションの救急車の増車ができなかったということだが、市民の命を守ることを第一に、先送りしていいもの、してはならないものを選択してほしい。今後、整備は予定されているのか。</p> |
| 事務局（幹事） | <p>救急車の到着時間は5分以内を目指しており、市内はほぼ目標時間内に対応できている。ただ北浜地区は、目標時間を超えているため、地区の要望と、市民サービスの均一化を考え、救急ステーションを計画した。救急ステーション整備のためには、救急車がもう1台必要になる。現在は3台で、4台目が必要な場合は、隣接消防員協定により対応をお願いしている。</p> |
| 委員 | <p>消防の広域化によって、救急車の問題、消防士の研修など、課題のいくつかは解決できないか。解決できるのであれば、広域化を進め、それほど効果がなければ、救急車を買うのか、消防車を買うのか、消防士を増やすのか、一つ一つの課題を精査し、優先順位を付けて対応しなければならない。課題の解決方法として、どのような選択肢があるか教えてほしい。</p> |
| 事務局（幹事） | <p>消防広域化については、兵庫県11ブロックに分けて、広域化せよという指導があったが、市長は、高砂市は1市1消防本部とするとしている。高砂消防本部の考えとしては、必ずしも消防広域化には反対しない。広域化すると業務的にはよくなるが、市民サービスという観点からすると、必ずしもよいとは言えない。難しい部分である。</p> |

| | |
|---------|--|
| 委員 | 1市ですべてをまかない、維持するとなると、財源上の問題や職員数の問題等で負担が大きい。メリット、デメリットを慎重に見極め、市民にとって何がベストかを考えて実施すべき。 |
| 事務局（幹事） | 広域化については、無線のデジタル化という問題もある。これから救急無線の共同運用という話も出てくるだろう。共同運用してもしなくても費用負担が必要となってくる。 |
| 委員 | 救急で一番大事なことは命を守ることである。患者がたらい回しにされるようなことがないよう、市民の命を守っていただきたい。 |
| 事務局（幹事） | 救急医療に関するさまざまな問題が起こり、救急体制については法律も改正された。病院側が受け入れ体制を確保するシステムになっている。 |
| 委員 | 救急患者の受け入れ先がなく、非常に苦勞していると聞く。すぐに答えの出る問題ではないので、メリット、デメリットを十分に考慮しながら、よい方向に持っていくことを検討していかなければならない。 |
| 事務局（幹事） | 次回、広域化に関しての資料を持参する。 |
| 部会長 | 市民の命、財産を守るということは、急務かつ重要な課題である。そこを担当するわれわれには、それなりの覚悟が必要である。この部会がもっと深まっていかなければ、市民の安全、安心という面から遠ざかっていくような気がするので、今後ともよろしくお願ひしたい。 今日出た意見、質問に対しての資料を次回までに提出、あるいは、委員に送付していただきたい。 次、その他について事務局より説明願う。 |
| 事務局 | その他について説明。 施策データについて説明 資料1について説明 当日配布資料の3～6について説明 質問並びに対応状況等について、 ①具体的な成果がわかりにくいので、めりはりをつけた事業の評価の数字はないかという事で、いま各担当のほうで、評価をやっている。 ②未実施事業および課題のある事業などに、事業遂行過程で検討された内容を簡略に示したほうがよいのではないかという事で、本日の質疑のように審議会のなかで対応していただきたい。 ③限られた財源のなかで、実施事業の優先順位の見直し等おこなったと思うが、優先事業の子細が必要ではないかということで、考え方、長期事業計画、実施計画、行財政改革の大綱など踏まえて事業をおこなっていったという経過がある。取りまとめができた時点で配布を考えている。 ④事業の起案、推進中においても、個別事業ごとに、市民の評価、事業の |

| | |
|-----|---|
| 部会長 | <p>人気などを市民の意見を聞きながら進めるべきではないかという事で、市民の方のご意見を聞きながら進めるということは重要なことである。今後の課題として、第4次計画のなかでどのように進めていくかという表現のなかに関連するということで、今後の課題とする。</p> <p>⑤第3次総合計画を全体的な大きなスタンスから整理分析して、全体を総括し、第4次計画に反映させる内容の記載が必要ではないかということで、計画途中ということもあるが、分析したかたちで示したい。</p> <p>また、質問、意見等があれば、随時事務局のほうに送っていただきたい。アンケートの中間報告的なもの、次回にでも提示したい。</p> <p>これにて今日の部会を終わりたい。次回は10月6日火曜日、2時から南庁舎2階で開催する。</p> <p>(終了)</p> |
|-----|---|